



病院の経営方針や診療・勤務体制などを話し合う「月曜会」。和気あいあいとしたなかで、細かい疑問などを含めて自由に意見を出し合い、現場に伝えることで情報共有を図る

職員が気持ちよく過ごせる 病院づくりを担う2つの会議

東

京医科大学霞ヶ浦病院の副院長から2004年10月、当院に副院長

として入職。06年9月に院長に就任して考えたのは、仕事をするうえで病院を、職員みんなが気持ちよく過ごせる場所にしたということ。職員が気持ちよく仕事をしていると、自ずと患者さんへの対応がよくなります。そんな明るい職場になれば、人が定着し、楽しく過ごせます。朝起きた時に、「みんなと会って仕事したいな」と思える病院が理想です。このような職場づくりのため、コミュニケーションをとることを心掛けています。食堂で一緒に食事する、誰とも気楽に話をするといった日々の積み重ねです。院長室は自由に入れるように敷居を低くし、私を含めて上層部と誰もが気軽に

に話せる状況をつくってきましたが、それでも、「経営陣が何を考えているかわからない」という声が上がりました。

そこで幹部が集まる月1回の運営委員会を改変し、師長以上の医療・介護職が参加できる「月曜会」を週1回開催。また、現場の困りごとや要望を聞き、検討する場として院長、副院長、看護師長、一部の事務職で「木曜会」を月2回開いています。今では、現場の管理職と経営陣との垣根はほぼなくなったと思います。

当院はずっと、「人の気持ちを汲む医療」を理念に掲げてきました。その追求にあたり、日々心掛ける8つの行動指針を半年ほどかけて議論し規範(クレド)を作成。全職員が携行し、日々の仕事に反映させています。

医療法人財団圭友会
小原病院
福江英尚 院長



「病院組織は『和を以て貴しとなす』という聖徳太子の言葉のように、職員、患者さんを含めて1つの家族だと思っています。将来的には在宅や看取りを含めた医療・介護連携拠点として地域ニーズに応えられる病院にしていきたいです」

医療法人財団圭友会
小原病院

1955年10月に地域社会に貢献する救急病院(20床)として設立。67年、医療法人化。患者ニーズに応える形でケアミックス、療養病床と機能転換を図ってきた。現在、20対1医療療養病床120床。中野区、杉並区を中心に訪問診療にも力を入れている。